



諸施策進捗について【vol.2】

「売上規模に応じた最適な物流コストの実現」に向け 連結子会社 REDU ロジスティクスの物流事業を譲渡

株式会社レナウンは中期経営方針 RMAP 発表当初より、更なる事業構造改革として効率経営の追求と利益体質への転換に向け各種施策を掲げています。その施策は中期経営方針発展プランの RRMAP(ダブルアールマップ)にも引き継がれ、実現を目指してまいりました。

2011年2月期は当社にとって再生フェーズの最終段階であり、2011年3月から始まる再成長フェーズに向け確固たる経営基盤を整えるため、施策の一つである「物流改革」を具体化させ、売上規模に応じた最適な物流コストを実現させるべく、連結子会社の REDU ロジスティクスの物流事業を株式会社 OPAL(注釈参照)に譲渡することにいたしました。

これにより、今までのグループ内物流から大きく舵をきり、完全外注化を推し進めます。

注釈:株式会社 OPAL(仮称)は、株式会社 MIT Corporate Advisory Services により運営されるファンドが設立する予定の会社。

株式会社 MIT corporate Advisory Services は、物流業務に関わるコンサルティングを得意とし、且つ物流業務そのものの受託・効率化についても様々な実績をあげており、豊富なノウハウを有し、当社にとっても高い物流サービスが享受できます。

外注化することにより、当社が得られるメリット

1. 経営資源を本業に集中
2. 物流事業にかかる設備・運営コストの更なる削減
3. 最新物流ノウハウの導入による高い物流サービスの享受

今回の事業譲渡は、レナウングループに係わる物流業務の改善及び効率化に成果を与えてくれ、RRMAP で掲げている目標達成に向けて大きな役割を担うものです。

物流事業譲渡の詳細に関しては、12月21日発表の当社公式リリース「連結子会社の事業譲渡及び特別損失の発生に関するお知らせ」をご覧ください。

以上